

# 産業建設委員会記録

令和2年7月21日（火）  
9時57分～11時20分  
第1委員会室

【委員】 串崎委員長、飛野副委員長、  
川上委員、野藤委員、笹田委員、布施委員、道下委員  
【執行部】（産業経済部）大驛商工労働課長  
【事務局】 近重書記

---

## 議題

### 1 産業建設委員会の今後の取組課題について

【主要テーマ】 浜田漁港周辺エリア活性化について

- 農産物を扱う産直市の誘致
- 陸上養殖

### 2 その他

【議事の経過】

[ 9 時 57 分 開議 ]

串崎委員長

ただ今から、産業建設委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。

商工労働課長

それでは、レジュメにそって進めるが前に商工労働課長から報告が1件あるので、願います。

三隅発電所2号機建設関係作業員仮宿舎の一つ、熊谷JV及び大平電業が利用している岡見地区松原住宅の裏手で汚水流出があったとの情報が入ったので報告させていただく。

確認されたのは先週17日金曜で、三隅支所と下水道課で現場確認等した。私も月曜に情報もらったので行ってみたが、その時には既に熊谷組が応急対応をされていて下が乾いていた。緑の藻が生えていたので、かなり以前から漏れ出していたのではないかと考えられる。汚水の流出量は定かではないが、汚水は側溝から道路の雨水管に流れ込み、最終的には海に多少流れたのではないと思われる。

浄化槽ポンプが原因でオーバーフローしたと考えられる。原因はポンプの故障のようで、三つある浄化槽の循環ができず、排水がうまくいかなかった。熊谷組の方ですぐに応急対応し、今後の根本的な対応については検討すると伺っている。なお、現在周辺住民等から、本件に対する苦情等は伺っていない。三隅発電所対策室としても、今後、十分注意し対応するよう依頼し、引き続き地元活用の協力をお願いした。

串崎委員長

質疑はあるか。

道下委員

こういう事案は結構あるのか。

商工労働課長

私は初めて聞いた。

串崎委員長

その他あるか。

( 「なし」という声あり )

笹田議員

商工労働課長に冒頭確認したいことがあるので、しばらくいてもらいたい。

商工労働課長

11時からの会議までは在席できる。

串崎委員長

では、課長には申しわけないがしばらく同席をお願いする。

1. 産業建設委員会の今後の取組課題について

串崎委員長

前回6月23日の産業建設委員会にて、テーマは浜田漁港水産関係ということ申し合わせ、7月から10月に勉強会、できれば12月に政策討論会幹事会に提案を出したいと皆と確認した。農業も含めた勉強会の提案もあった。レジュメにはその時に出た内容を2点書かせてもらった。「農産物を扱う産直市の誘致」ということで、魚だけではなく農産物を扱う産直市もあった方が良くという意見があった。それと「陸上養殖」の関

- 係となかなか進展がないということで、2点が上がっている。
- 今日は皆も議題を見ているのである程度の考えもあるかと思うが、最初は農産物を扱う産直市の誘致について、今後どのように進めるか、流れや勉強会があると思うがご意見を伺いたい。
- 市田委員 市の状況を聞きくため商工労働課長在席を求めた。以前からお魚センター周辺については、いろんな議員が個人一般質問等で市民が集う場所にしなければということで、魚介類だけではなくて浜田市の農産品等も一緒ににぎわう形で立ち上げる必要等々の話があったが、市の状況としてどのような考えや、J Aとの連携含め考えられること、今後考えていかなければならないことがあれば聞きたい。
- 商工労働課長 J Aとの直接の交渉経過については当課で行っていないため把握していないが、農水連携は必要不可欠と産業経済部としては考えている。私個人的な立場としての意見を述べると、ゆうひパーク浜田を所管しており、そこの連携もしっかり考えていかないといけないと思っている。めり張りを付けたすみ分けも考えないといけないと個人的には思っている。それを踏まえて最終的に検討していくべきだと思う。まだ部全体での整理はできていない。施設の相乗効果でより良くしていきたい。
- 市田委員 J Aとのアグリの商品をお願いした経緯は浜田市にはないのか。
- 商工労働課長 私は直接把握できていない。J Aとは他でもいろいろある中で今後の話は当然あるかと思うのでしっかり協議しているとは思いますが具体的な進捗は聞いていない。
- 市田委員 そこまで産業経済部全体の連携が取れていないのか。市にとって今年度最重要課題だと我々は認識しているが。所管課としては把握しておいてもらいたいのだが。
- 商工労働課長 その辺は把握しておらず申しわけない。例えばどぶろくの話であるとかいろんな話は相談を受けており産業経済部内で当然話はしているが、J Aと直接のことは把握していない。当然相談は受けているが、一方の私の立場も思いもあってどうしようかなと、どう返そうかと個人的に考えている。ゆうひパーク浜田もあるので、ここに集中してしまうとゆうひパーク浜田の方が心配なので、そこは相談していきたい。そこは私がゆうひパーク浜田と話をしているので、連携をとれるようにしてほしいと私からゆうひパーク浜田へしている状況。
- 市田委員 個人的な意見であり市の全体的な考えはまだ決まっていなにかもしれないが、今まで浜田市がこれだけ色んなところが盛り上がらないのは分散しているから、そこに市民が集まらないのではという意見もある。めり張りをつけることも大事

商工労働課長

だが、何かしら拠点が無いと同じ過ちを繰り返すのではという思いも議会にはある。それを理解してほしい。

私もそれは重々理解しており、逆に言うと本当は一極集中の方がいいだろうという思いもあるが現状がこうなので、あるものは有効活用したい思いもある。しっかり相談しながらより良くしたいと当然思っている。

笹田委員  
商工労働課長  
道下委員

陸上養殖については全くわからないか。

どうなったかまでは、報告は上がっていない。

ゆうひパーク浜田とJAと、弥栄もどんどん来ていたと思ったのだが、今どういう状況か。

商工労働課長

ゆうひパーク浜田は現在コロナの影響があるが、道路に直結する場所で最高の立地だと思う。これから道路が直結すると。直結する道の駅はゆうひパーク浜田と宍道の方くらいしかないのではないかと。今、ゆうひパーク浜田としては道の駅もそうであるがサービスエリア的な意味合いも考えていきたいと所長も話をしていた。そういった形で利用促進を図っていきたい。いろいろ入っている事業者さんとも活性化について相談している。

道下委員  
商工労働課長

JAもしっかり入っているのか。

JAは入っていない。ゆうひパーク浜田の考えは「お魚センターが漁なら逆に農で」という思いも多少あるようで。あそこはよそから来られるお客の割合が圧倒的に多いのだが、地元の人にも来てもらいたい。飲食店スペースがあるがお客を呼ぶにはどうしたら良いか、並行して悩んでおられる。

飛野副委員長  
商工労働課長

コロナ関連で特に何かあれば聞きたい。

コロナについては産業経済部としては、第1弾から始まって5月臨時会議、6月定例会議、7月の臨時会議でどちらかという給付的支援策を中心にやっている。並行して観光として応援チケット、産業全体としては、地元製品の販路の問題について考えて検討している。事業者からの声を聞く中でそれなりの支援策はある程度できたと担当課としては思っている。色んな事業がある中で国の支援策も並行して窓口を作って対応している。

野藤委員

農産物を扱う産直市誘致として、思い浮かんだのがBUY浜田昼市なのだが、これは出店に対する補助政策、補助金、特典はあるか。

商工労働課長

BUY浜田昼市は、あくまでも支援策と言うか地域住民の運動活動だと、盛り上げ活動だと思っているので、どちらかという事業者支援というか地域の皆さんに浜田産品を買ってもらおう運動だと意識啓発と主眼を置いて取り組んでいる。認知度を上げたい思いはある。

野藤委員

BUY浜田昼市を何度か開催しキーマンになる人、出店者

商工労働課長

の連絡協議会やそういった団体はあると思うか。

正直言うとまだそこまで至っていないのが正直なところだと思っている。行政が音頭をとらないとなかなかできない。本当はどこかそういうところがあれば行政としてはそこをお願いして実施いただくことを考えたいが実際はできていないと思っている。

串崎委員長

その他あるか。

( 「なし」という声あり )

では、商工労働課長は退席されて構わない。感謝する。

《 商工労働課長 退席 》

串崎委員長

今の話も踏まえ、最初の産直市誘致について何か意見はあるか。

布施委員

商工労働課長の答弁について反論してもしょうがないが考え方については特に触れない。民間は、自分らの食いぶちを自分で考えるのが常。ゆうひパーク浜田も民間である。市民の方の誘致が今までできなかつたからああいう状態になった。お魚センターも同じ。お魚センターができた当初は浜田の地域・水産ブランド、魚を集約できる拠点ができたといって市民が利用していた。観光客も利用していた。人が来るからあぐらをかいていたわけではないが商売に対して甘いところが出て漁価も隣の店と本当は競争して自分たちの店を維持するためにはどうしたらいいかの競争意識がなくなった。どの店へ行っても同じ値段、同じ業者で、浜田市民が魅力を感じなくなった。市民が魅力を感じなくなった以上に観光客は全国の情報を見ている。買い物動向を見ている。特に女性は、観光地だから高くて当たり前という時代から、観光地で安くていいもの、そういったものにシフトした状態のときにお魚センターがああいった状況になったということは周知されている。どっちも生かすのは大事だが、すみ分けしなければならない。ゆうひパーク浜田は浜田の道路の玄関口であり観光客の寄り道である。トイレの利用者も多いが、農産物を置けるスペースがない。実質、皆さんご存じか。ゆうひパーク浜田内で以前は土だったところ。昔、木のオブジェがあった所は改装して障がい者用のための駐車場に切り替わっている。そういう状況で飲食がありお土産があり2階に食べ物を提供する。あれ以上に次農産品を持ってきてやろうとしても売る場所がない。ということはほとんどできない。それを知っていると思う。産業建設委員会では、浜田漁港周辺エリアの活性化のために何が足りないか、何が必要かを政策提案していくに当たり、笹田委員が言ったとおり指定管理者も決まり、公設仲

買売り場も入る。ある程度魚の部分は新鮮で、三セク経営方針もあろうが、農産物は取り扱っていないので、そうしたらエリアの中で一緒になって市民を呼ぶにはどういった策があるのかということも市も真剣に考えないといけない。農産物に限らず、昼市、夜市、市民のフリマ、にぎわい創出を真剣に考えているのかと先ほどの答弁の中で。前課長の申し送り事項も、重要性がないと思っておられるのか、わからないと言われた。課長としては、どちらを立てるのかといった答弁だった。

概要版があるからこのとおりの、ではなく、これには中身がない。産業建設委員会としてそこを提言できると思う。

養殖の方は別にしてせつかく良い拠点ができるのだから、本当のにぎわい創出をできるために交通インフラも必要。時間帯、集客するためにはあそこにもいろいろなものを持ってくることが大事だと思う。

私の経験から言うと、市民が利用しやすいのは、駐車場があって、行きやすい状況がないと。私はアクアスで何十年か携わったが、アクアスがあれば西日本最大の水族館になったのは、駐車場があって、高速道路を降りてからの道が分かりやすく観光サインや看板もしっかり準備して、宣伝もした。そういうことを総合的にやらないとにぎわい創出の最初のスタートに立てないのではないかと思った。さきほどの答弁を聞いて甘いなと思った。

川上委員

話がたくさん出ているが産業経済部の所管がバラバラである。産業経済部がオールでお魚センターに目を光らせていただきたい。農業も漁業も観光も。そういう立ち位置にしない限り無理ではないか。今言われた関係人口についても、定住関係人口推進課が新たに作られたのだからそこからも目を向けていただきたいと思う。

笹田委員

布施委員と川上委員と同意見である。浜田市今年度、最大のプロジェクトについて所管課長が分からないのは問題である。水産のことしか考えていない。先ほどの観光・農林諸々含めてあそこをどうにか活性化したいという気持ちがあれば市の中にも部内で、新お魚センター何たらプロジェクト係みたいなものを作って課長が集まってここをどうするかやらないといろんな意見は出ないし、新たな創出はない。今のまま布施委員が言ったようにお魚センターが新しくなって公設市場も入っての指定管理者も決まっている。相乗効果で周りに増えていく仕組みを考えないと意味がない。これまでと同じになる。そういったところを市が考えているのかと今聞くだけでも怪しいと思う。そういった提言を議会からする必要もある。今何を考えて、どう進めるつもりかを市に聞いて、

野藤委員

我々ができることを話して直接JAに行ってお話を聞くとか、野菜だけでなく花も肉もあるし、一堂に会せるような形で我々が動くのも一つの手かと思う。

古きを訪ねてみると、楽市・楽座というのがあった。にぎわい創出のためには楽市・楽座だと。出店は誰でも良くて出るのも自由。今でいうフリーマーケットやのみ市だが、参加しやすく、不参加でもペナルティもないといったような、テント式というか先ほどBUY浜田昼市のことを言ったが自然発生的な、経費も掛からず出られるようなもの。行政はスペースと段取り・仕組みづくりだけして、キーマンに任せる、団体に。そういう仕組みを考えてもらいたい。ハードを作るのではなく。いろんな成功事例を見るとやはり団体があって、楽しく皆でわいわいやっている。

政府は副業を奨励しているが、結局副業である。フリマにしても不用品を売るのも副業だし。米を作ってJAに出すほどでもないから小分けで売るとか。それも小遣い稼ぎというか副業である。ただ、JAの場合は副業を認めているというか。聞くところによるとJFは準組合員でも他で売ったものも手数料を納める決まりになっているらしいが。

JAやJFといった組織があまり関与しない仕組みができれば。公設市場ができるがあの周りには土地は駐車場を含めてあるので、そういう部分を仕組みとしてできれば。参考事例もあるので。

布施委員も言われた、市民が行きやすい交通体系。石見交通はメリットがあればやるだろう。中を入れて周布線の中へ落とすことは働きかける必要がある。プラス、浜田市の小さな交通体系ができればと思うが、公共路線が入ると無理かなとも思っている。

一番大切なのは商品の鮮度。農産品にしても手作り品にしても魚にしても鮮度と価格。お客は鮮度と価格は分かるので、それはきちんと徹底して売っていただくことをやれば。やる人が楽しみながらやればと思う。

楽座というのは催し物。以前お魚センターで、愛好者が音楽をやっていた時期がある。そういうものだったり、例えば手品だったり、落語であったり、何でも良い。そういうスペースがある程度あれば。楽市・楽座があり、なおかつ本体の公設市場がある、そういう形が良いのかと思う。

色んな事例を見れば、和歌山県有田市の箕島漁港は先月31日に新鮮市場「浜のうたせ」がオープンした。施設規模は不明だが。新鮮な海の幸が楽しめるレストランコーナー。漁師の活気を感じてもらいたいというコンセプトにある。雰囲気を感じながら、良いものも買える場所になればと思う。

布施委員

やり方については主体となる公設仲買売り場の鮮魚はある程度あるが、三セクもあって、飲食もできる、そういうものに期待するが、やはり連携性である。高度衛生管理型荷捌所もできた。あれは鮮魚を保つためだけでなく産業観光になりうる施設で、見てもらうこともできると思う。

前委員会で行った八幡の施設と違い、下関もそうだが、二階から見える状態ではない。同じ目線でしか見えない状態。産業観光にするためには、シャットアウトされるような状態であると思う。入るためには長靴を履かないといけない。産業観光の中で見られるように案内できる部分はあると思う。お魚センターはお魚センターの部分の公設仲買売り場が動くのでその部分で。

野藤委員が言われたように、駐車場。あの広い駐車場をどう利用していくかも、全部関係してくると思う。公共交通もそうだが、デマンドといったものも、買い物バスツアーといった感じで週末に運行されるとか、考えだしたらきりが無い。やるために最初に何をすべきかが一番できてない状態だと思う。どうなるかなど。オープンして、笹田委員が言うように今までの繰り返しではないかという思いが非常にする。

1回失敗したら次に挑戦しないのが石見人の気質かわからない。勉強させてもらったと。商売で失敗してもそれが次への糧になり次への成功のため挑戦するが。なかなか、これやったら駄目だったことが尻すぼみになることが非常に多い気がする。リードできる人、コーディネートできる人がいない。行政も民間も。それが必要なのではないかと思う。

道下委員

公設市場の石井事務局長とか、農協のトップ、指定管理者である第一ビルサービス、あれは我々とコンタクトできるのか。呼べばできるのではないか。産業建設委員会から。

布施委員

できるが中身の内容を決めないと、入りんさいと指示するだけでは、彼らも考えがあるかもしれないし。

道下委員

無理か。

布施委員

きちんとした文言を持って言わないと無理である。

道下委員

一番は、関係団体のトップと顔を突き合わせて、希望や懸念を言ったり、向こうの考えを聞いたり、コロナの関係も、スーパー的な考えをしている。指定管理者との意見交換をやるべきだと思う。

布施委員

道下委員、前委員会の中で第一ビルサービスについて、農産品直売部分を作ってほしいと一般質問をされたことがある。卸し、委託と買い取りという制度がある。利益率が異なる。委託は良くて3割しか利益率がない。買い取りは半額でくれることがある。代わりに在庫は自分で処理する。それはレストランを持っている、二次確保ができるところはペイできる可



道下委員  
布施委員

能性があるが、産直市やるから置かせてくれということは今  
の指定管理者に言うと、リスクが多いから受けない。売る広  
場面積は決められているから。

どうやると理解が得られるか。

始まる前に最初から約束しないと無理である。執行部の答  
弁でもほとんど無理とあった。店長のところに、部外者がア  
イデアを持ち込んで、失敗したら誰が補てんするのか。

道下委員

第一ビルサービスが受けたからには、そこの言いなりにな  
るのか。

布施委員  
道下委員  
布施委員

言いなりではない。

産業建設委員会が、どう改革するか。

お魚センターの部分はあまり触れないから、その周辺を盛  
り上げる。関連施設をしっかりとやらないと、ここも持たない。  
ここだけが頑張ってもダメである。それを提案しようとして  
いる。

笹田委員

道下委員の気持ちは分かるが、公設市場があそこに移転す  
るし指定管理者が決まった。それを議会は承認した。その内  
容を変えるのは無理である。議決した以上、そこを任せて、  
波及するものを作らないといけないということで。お魚セン  
ターの中身に意見を出すことはもうできない。それとは別に  
できないかという議論をしなければいけないのでは、という  
話である。今の施設については、頑張ってくれとしか言えな  
い。

布施委員

去年の産業建設委員会で政策提言した。笹田委員、野藤委  
員、私が言ったことも提言に入っていたが、それが生かされ  
ているかはオープンしなければわからない。道下委員が心配  
している第一ビルサービスがどういうものか分からない。大  
化けするかもしれない。議決して任せた以上は応援する立  
場である。ただ、それだけではだめだから、漁港周辺のにぎ  
わい創出で浜田市民の目を向けさせようというのが、この委  
員会での政策提言の第一歩だと思っている。

笹田委員

例えばお魚センターの横に、浜田市がJAと交渉して「土  
地を無料で貸すからここへ建ててアグリをやってくれない  
か」とか、「浜田市が半分出すから半分JAと協力してやろ  
う」とか、そういう話になれば良い。コーナーがあったり例  
えば屋根でつないでお魚センターから移動できたり、音楽が  
できたり、そういうのを民間の力も利用しながら波及でき  
るような形を我々で提言しなければいけないのではないかと  
いう話。

道下委員  
布施委員

それしかできないのか。

道下委員、3年前に笹田委員が提案したのではなかったか。  
20年すればあの施設が老朽化してだめになるから、全部潰し

- て、大きくして福岡にある伊都菜彩（いとさいさい）のような施設で、農業も鮮魚も花もすべてそこで買える施設にしろという議論が3年前の入口だったのだが、それはできないということで今に至っている。
- 道下委員                   それができなくて、最終的に今の指定管理者である第一ビルサービスにといった時に、あなたたちの思い通りにやってくれと。私たちは言うことは言うたから。
- 笹田委員                   例えば話の中身が、第一ビルサービスさんはお魚センターを新たに作るが、逆に周りに何があればお魚センターが輝くかとかいう質問ならまだ良い。中身の提案ではなく。あの土地に何があれば潤うか、そのために議会は頑張るという話なら良い。
- 道下委員                   それだけか。
- 野藤委員                   岩本商店は建てているのか。
- 川上委員                   あれは仲卸の追加。足りないから。
- 道下委員                   あそこで商売できないから。
- 野藤委員                   どちらにしても何かできているなどは思ったのだが、門前町、大本山の公設市場があって、その周りに人がくるとなれば仕組みを作れば、出てみようかな、土日に集中して人が来る。昔は特区というのがあった。小遣い稼ぎに百万円までもうけをしようかと持って行って売る人も出てくると思う。そういうものができれば。高齢者の生きがいだったり、軽トラ市でも良い。軽トラの横にテントを置いて出店する方も楽な形があるはず。そういう仕組みで行えば何かすれば人は来る。それは向こうも歓迎するだろう。そういう仕組みができれば。にぎわいが伝わっていけば人は来ると思う。
- 川上委員                   何かそこでできる形というのであれば、駐車場の広さはご存じのとおり。旧道から降りてくるところも十分使える。奥も使えるだろうし、同時に7号の駐車場とお魚センター駐車場の間の道路も使える。あそこを使う手はたくさんある。使わない手はない。使えば使うだけ皆が来る。それは自由な部分でやった方が良いのでは。そこでテントを建てるとか。施設を作ると固定費等かかるので。仮設のものが作れば良いと思う。
- 野藤委員                   以前、神楽用の仮設ステージがあったが、あの形で良いと思う。それを神楽等で使ったりと。
- 布施委員                   イベントで人を呼ぶ時に必要な部分と、日常で浜田市民が利用する神楽は分けてやらないと。神楽が必要な部分は分かる。イベントが必要な部分も分かる。日常にどうするのかという考え方をしないと、全て一緒に考えるとあれもこれもいることになる。仮設か常設か。細分に見てやる。何が一番必要で何が足りないか、どうしたら良いか。執行部が言うよう

笹田委員

に全部ばらばらだから、答えも、うちの所管では分からないということでは良くない。

最初に、お魚センターができることは決まっているのだから、いろんな話が出た中で、順番を決めるべき。僕らの話す順番も含めて考えないといけない。提言していくなればあれもこれもではなくて。例えばどうやって人を呼ぶか、仕組みづくりをどうするか。最初にJAの農産物をどうやれば持ってこられるか。人が集まればフリマもできる。市が大きなものを建てるので、市がある程度協力して農産物が売れる場所を提供しないと、民間に任せても絶対にできない。そこを我々が後押しできる形で波及していけばいいので。そこは市が応援してやるべきなのだとすることを、我々がJAと話してもいいし、第一ビルサービスと話して何が周辺に必要かと。まず市議会議員なので市がどういう協力ができるか、からやっていかないといけない。そういったところから取り組むべきでは。

串崎委員長

皆のご意見を伺った。お魚センター周辺をどうするか。その中で産直市も結構だし、イベント広場の仮設もできる。いろいろ出た。そういったところで1つずつ勉強会というか、話を聞くとすれば、第一ビルサービス、JAの考え方も大事だろうから、まずJAの部長に産直市のことを教えてもらったり、もしそうなれば、来られるか来られないか、意見交換会のように合わせて。お魚センターだけではだめなので。そこをできる限りの形で。相手があることなので。一度JAを呼んで一緒に。

飛野副委員長

今、委員長や笹田委員が言ったように順番が物事にはある。その中で例えば農産品ならJAかもしれないが、今こちらに何もない状態でJAと話すのは順番として良いのか。もう少し浜田市としてどのくらいの気持ちを持った中で話せば変わってくると思う。浜田市の中から、もう少し何か掴もうではないか、見えてきてから外部と話す。どちらがいいかはわからないがそれに拘った方が良いのでは。

笹田委員

私も同じ意見で最初に言ったように、まず担当部長と担当課長に来てもらって今の状況を聞くことが必要だと思う。今話していること、考えていることを、JAと話すこと、第一ビルと話すこと、浜田市内でプロジェクトチームを立ち上げてほしいこと、こういう話を聞きたいという中で、JAと話は進んでいるかとか、第一ビルサービスはどのようなことを考えておられるか、そういうことを聞いた後に話をした方が良い。

今の段階でできることは、呼んで話を聞いて、きちんとしたプロジェクトチームを立ち上げてもらうこと。これが第一

飛野副委員長

だと思う。その話を聞いて関係者に話を聞く機会があれば、聞いてどうすれば実現できるかを我々が市を通じてやっていく形が一番良いのかと思う。

産直市は以前資料で2億5千万円程度の売り上げである。歴史は浅くてこの10年ほど。急激に伸びて、将来にまだ展望があるとJAは考えている。そういう中で、非常に、商売人なので、こちらがどの程度のものを出すかで、ずいぶん力を入れてくると思う。

産直市の推移を頭に置いて進めていくべきである。伸びは最高の形になっている。

提供された資料で気に入らないのが、JAからの丸投げのように見える。浜田独自ですべきである。生産者はJAに出さないとよそで売ることになる。その金額はここでつかめない。市が頑張れば上乘せできるはず。

布施委員

飛野副委員長が言ったように産直市は大きな売り上げどころだと思う。午前中ではほとんどなくなる。だけど他の全国の産直市を見ると、展示する商品も量も種類も違う。まだまだ浜田は大規模化、産直市部分を市が提供できれば、生産者は集中的に持ってこられるのではないか。そうすると、今の2億5千万円が江津市のサンピコごうつの数値も入っているが、倍とは言わないまでも非常に金額のウエイトがあがるのでは。

黒川の産直市は長沢・黒川・浅井、街中の人がかっちに来ることはない。産直市は周布にもあるが、旧市内の方がそういう所に、公設仲買売り場と併設できるとなると、利用率はかなり上がるのではという思いがある。

飛野副委員長

布施委員とまったく同じ意見である。黒川はもう飽和状態と思う。例えば今、周布で産直市があるがああたりにからもっとこちらに来てくれる可能性がある。買う人も出す人も魅力のあるもの。一つにまとめるのではなく分散して、力強いものを作っていく。そこへ人が集まる形が良い。

串崎委員長

次の段階としては、JAの状況だったり第一ビルサービスの状況だったり、笹田委員が言われたように課長でプロジェクトチームを作ることもちょうから意見を述べさせてもらったり。そういったことで部長と各課長と、関係人口の話もあったので定住関係人口推進課長も来ていただき、今の話のようなことをこちらから言ったり、状況を聞いたり勉強会をするということで良いか。

川上委員  
野藤委員

本庁の産業経済部すべて呼べば良い。地域政策部も。

1点確認するがJA黒川産直市に出す、金額の付け方は誰が付けるのか。

布施委員  
野藤委員

自分でバーコードを打つ。

生産者が自分で決めるのか。

布施委員  
野藤委員  
飛野副委員長  
串崎委員長

そう。  
浜田市内で産直に出せる余力はあるのか。  
ある。分散したらさらに出すと思う。  
ただ、2億5千万円が頭打ちになってきてはいる。厳しくな  
っているのは事実だが、余力はあると思う。

野藤委員  
近重書記  
串崎委員長

自分で持ち込んで、自分で値段をつけていると。  
今後の流れを確認させていただきたい。  
今後の流れは、産業経済部長、課長全員及び他部の関係課  
長もお呼びして、勉強会、意見交換会。状況をまず説明して  
もらう、第一ビルサービスとJAの状況等。

布施委員

やることは決まっているが、そこまでの情報はまだもらっ  
ていないと言われた。一番執行部と情報交換が必要なのは、  
拠点はあるが全体をどう考えているか。検討していると回  
答されるが検討では遅い。

川上委員  
串崎委員長

各々無関係に動いているから。  
では意見交換。お魚センターはあるので、周りの状況につ  
いてどういう考え方か。

布施委員  
笹田委員  
近重書記  
笹田委員  
布施委員

そうなる。  
各々聞きたいことを聞けば良い。  
切り口を決めた方が良い。  
お魚センター周辺の今後の見通しについて状況確認。  
公共交通路線を入れるか、それが無理なら週末路線バスを  
走らせるとか。

串崎委員長

今日いっぱい言ったことが書いてある。それを全部書き出  
してもらって、こういう意見が出たから、それに対して話を  
しようという形で。抜粋してもらっておいて。

布施委員

大きくはプロジェクトチームを作って、やる気があるかな  
いか。連携すると言っても言葉だけではなく。プロジェクト  
チームを作れば専任できるので。産業建設委員会の中で関係  
部署に要望して、作るべきだということが最初の提言になる。  
これは必要だと思う。

笹田委員

今聞いてわかったでしょ。課長は状況を知らない。商工労  
働課長は知っておかないといけない立場のはず。

布施委員

ゆうひパーク浜田も大事だが、お魚センターは今から集客  
の大きな核になるところなのだから、ゆうひパークがあるの  
でと並列で考えては両方潰れかねない。

串崎委員長  
笹田議員  
飛野副委員長  
野藤委員  
串崎委員長

議題1については他にないか。  
プロジェクトチーム設立の必要性、というのを追加で。  
お魚センター周辺というより、漁港エリアだと思う。  
港オアシスが機能してないのだ。  
議題1については以上で良いか。

( 「はい」という声あり )

2. その他

串崎委員長

要望書が3件提出されているので、申合せ事項のとおり配信している。ご覧いただきたい。

・要望第14号

プレミアム付「はまだ飲食・宿泊応援チケット」に関する要望書

・要望第15号

一般県道黒沢安城浜田線の改良についてお願い

・要望第16号

浜田市弥栄自治区内の県道改良促進について

なお、この3件は市長へも提出されている。

道下委員

中身は同じことを言っているか。

野藤委員

路線が違うくらい。

布施委員

黒沢安城線は第2ダムから弥栄へ行く長見町を通る県道。

道下委員

確認して。同じか。

串崎委員長

出所も違う。こちらは長見と一緒に。また確認しておいてもらいたい。これについては良いか。

( 「はい」という声あり )

その他、委員から何かあるか。

飛野副委員長

確認でエリアの活性化の中で、農産物と陸上養殖の話があるが、エリア活性化といえば大きく見たら、あのエリアはまだいっぱい、産業としてもやっていけないといけない部分がたくさんある。提言の文書を作る時に書く程度で終わるのか。例えば、浜田沖の石油のこと、コンテナ、観光船のことであるとかエリア活性化の問題に入ると思うが、それは市に最後の提言のどこかに箇条書きする程度で終わるのか。エリアで言うがたくさんあると思うが。

道下委員

私は副委員長が言ったように、漁港エリアの大目標に置いておいて、今回はお魚センターのことをやる。大きな視点では漁港エリアだということを頭に入れながら。

布施委員

飛野副委員長が言うようにこれがスタートで、終わりではない。続いていくので。すべてやるには毎日委員会を開いても追いつかない。まずは漁港周辺活性化については題目行があってスタートとしては、公設仲買売場が移転新設するから、それについてのにぎわい創出と一緒にスタートダッシュしようということで提言するとか。次の段階でその後いろいろやれば良いと思うが。委員長どう思うか。

串崎委員長

それで良い。

笹田委員

今回絞っているが、市が一番関与して、喫緊の課題に取り組むべきと思う。市が抱える問題は、お魚センター周辺どうするか、陸上養殖がマルハニチロと市が連携してやる中でど

串崎委員長  
笹田委員  
布施委員  
笹田委員  
布施委員  
串崎委員長

ういったことがあるかと、この2つを議会も把握して市のために活性化させることが一番の課題だと思うので、それを迅速に議会としてもやって。その後各々課題が見つかるようなら広げていけば良い。県と国が力を持っているので。

陸上養殖についてはどうするか。状況確認するか。

勉強会の時に聞けば良い。現時点では何もないと思う。

進展だよな。

なかなか東京に行けないから。

我々も視察に行ければ良かったが行けないから。

他にないか。

( 「なし」という声あり )

では次回の日程と、内容について調整したい。

( 以下、日程調整 )

串崎委員長

では8月7日に一緒にやるということで良いか。

( 「はい」という声あり )

今日の議題は以上で終わるが、他にないか。

( 「なし」という声あり )

以上で産業建設委員会を終了する。

[ 11 時 20 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 串崎 利行